

高糖度トマト AIが水やり

静岡大と浜松市南区の農業ベンチャーHappy Quality (ハッピークオリティ)は、人工知能(AI)が判断し、自動で植物に水を与える方法で、高糖度トマトの安定生産に成功した。農家の減少や技術継承が課題となる中、誰もが使える栽培技術として実用化を目指す。

同大情報学部(同市中区)の峰野博史教授が、葉のしおれ具合を画像で感知し、水やりを制御するAIを開発した。超小型コンピューターやカメラ、センサーを搭載した

計測器で、トマトを栽培するハウスの温度と湿度、明るさ、葉の様子を1分ごとに記録。収集したデータに基づき、AIが水やりの要否や量を判断する。

昨年、このAIを使って袋井市内のハウスで栽培したトマトは平均糖度が一般的なトマトの2倍近い9.46に達した。収穫した果実のうち、95%が販売可能な品質だった。

同社によると、トマトは与える水分を最低限にするなどストレスをかけて育てると糖度が増す。ただ、水分量を

静岡大農業ベンチャーと安定生産に成功



静岡大の峰野博史教授と温度や湿度、葉の状態などを記録する手作りの計測器。袋井市小山

まくコントロールできないと枯れたり、実が割れたりするため、栽培には高度な管理技術が必要という。

ハッピークオリティの宮地誠社長は、環境が異なる別

の農地や品種など検討を重ねて汎用(はんよう)性を高め、早ければ来年度中の実用化を図る考え。「誰でもできる、稼げる農業を目指す」と語る。

(浜松総局・土屋咲花)